

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	72人	国語B	72人
② 算数A	72人	算数B	72人
③ 理科	72人		

5 留意事項

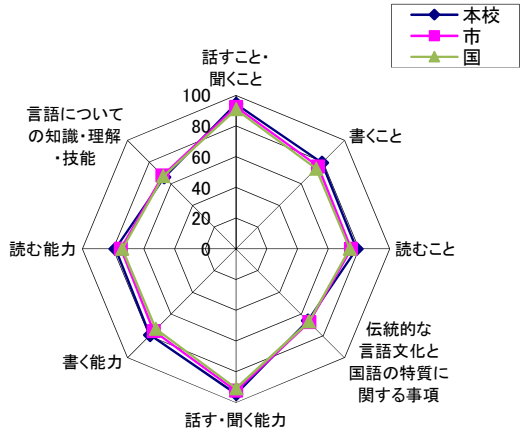
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

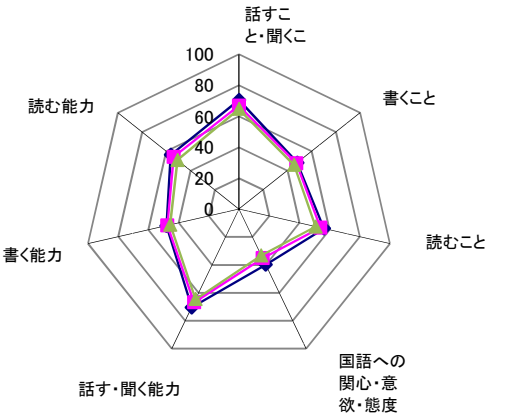
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	94.4	92.4	90.8
	書くこと	79.2	75.7	73.8
	読むこと	78.5	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.1	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	94.4	92.4	90.8
	書く能力	79.2	75.7	73.8
	読む能力	78.5	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	66.1	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.4	66.8	64.6
	書くこと	48.1	47.4	45.6
	読むこと	56.3	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	39.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	70.4	66.8	64.6
	書く能力	48.1	47.4	45.6
	読む能力	56.3	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

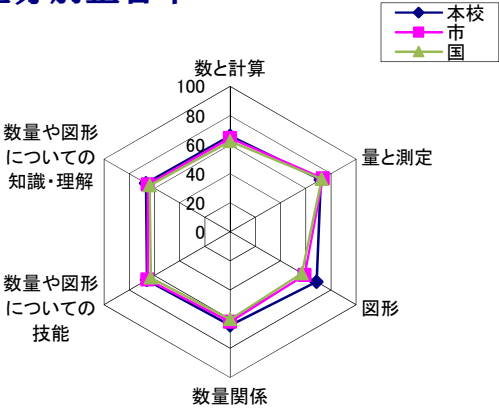
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語A94.4%, 国語B70.4%と、市の平均正答率をそれぞれ2ポイント、3.6ポイント上回っている。 ○計画的に話し合うための司会の役割について理解することができていた。	・各教科や学級活動等を通して、グループで話し合ったことをもとに、考えの共通点や相違点を整理しながら、メモを活用した話し合いの場を意図的に設定していく。
書くこと	○国語Aは79.2%, 国語Bは48.1%と、市の平均正答率をそれぞれ3.5ポイント、0.7ポイント上回っている。 ○話し合いの様子の一部の文章から話し手の意図を捉えながら、自分の考えと比べ共通点や相違点を整理し、自分の意見をまとめることができていた。 ●読み手に伝えるための工夫として、他のものと比較すると効果的であることを理解できていない児童がいる。	・分かりやすい文章を書くために、相手に伝わるかどうかという観点で再度検討したり、友達と相互に吟味し合ったりするなどの活動を取り入れる。
読むこと	○国語Aは78.5%と市の平均正答率74.9%を3.6ポイント上回っている。 ○目的に応じて文章の中から必要な情報を捉えることができていた。	・日常の読書活動においても、優れた叙述に着目して読んだり、感想の交流をしたりし、国語での学びを生かすことができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aでは66.1%と市の平均正答率67.5%を1.4ポイント下回った。 ○主語と述語の関係に注意して文を正しく書くことができていた。 ●漢字や慣用句を答える問題では、10ポイント以上低いものもあり、無回答率も高い。既習の漢字を文の中で正しく使う力が不十分であった。	・国語辞典を使って、慣用句を調べる活動を取り入れたら、日常生活で用いるようにしたりする。 ・漢字の学習では、新出漢字だけでなく小学校で学習する常用漢字を復習する機会をもつようにする。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

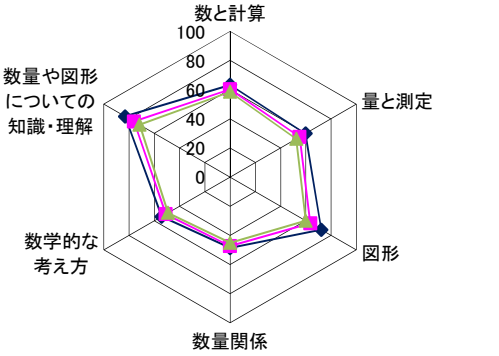
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	66.1	64.5	62.3
	量と測定	71.9	73.6	72.7
	図形	68.5	59.1	56.9
	数量関係	64.2	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	66.1	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	66.8	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	63.2	60.2	58.4
	量と測定	59.7	55.0	52.4
	図形	72.2	63.5	59.9
	数量関係	48.6	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	54.2	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	83.3	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

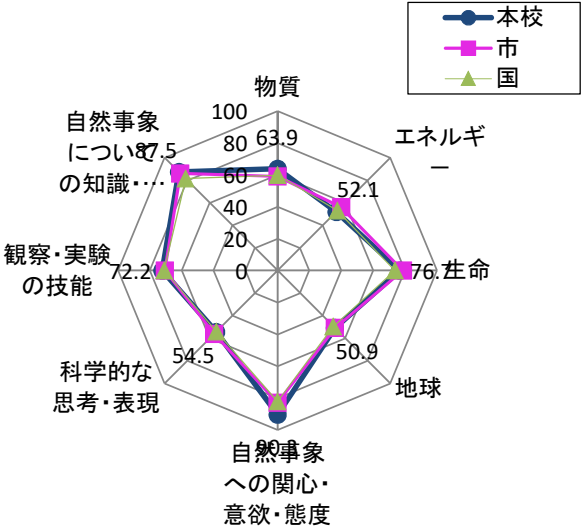
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、算数Aでは66.1%で、市の平均正答率64.5%より1.6ポイント、算数Bでは63.2%と、市の平均正答率60.2%より3.1ポイント上回った。 ●3桁の整数どうしの大小を比較する場合の着目すべき位についての理解が不十分であった。	・数の大小を比較するために、どの位の数字に着目すればよいのかを判断できるようにするための練習問題に取り組むようにする。
量と測定	●平均正答率は、算数Aでは71.9%で市の平均正答率73.6%より1.7ポイント下回った。 ○算数Bでは59.7%と市の平均正答率55.0%より4.7ポイント上回った。 ○直径の長さや円周の長さの関係をよく理解している児童が多く、市の平均正答率よりも20ポイント以上上回った。 ●単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解において定着状況に個人差が見られた。	・問題場面をよく理解し、求めようとしている答えがどんな単位量当たりの大きさなのかを意識して計算させるようにする。また、問題場面を図に描いたり、単位量あたりの大きさを実際に体感したりすることによって理解を深められるようにする。
図形	○算数Aでは68.5%と市の平均正答率59.1%より9.4ポイント、算数Bでは72.2%と市の平均正答率63.5%より8.7ポイント上回った。 ○直径の長さや円周の長さの長さの関係については、「円周率＝円周の長さ÷直径の長さ」であることを理解できている児童が多かった。 ●円周率を求める式として正しいものを選ぶ設問では、正答率は市の平均を上回っているが、円周率の意味についての理解は不十分であると言える。	・いくつかの円について実際に直径の長さや円周の長さを測定する活動を充実させる。さらに、円周率の意味の理解をもとに、円周の長さが直径の長さに比例することや直径の長さから円周の長さを、また逆に円周の長さから直径の長さを求めることができるように繰り返し問題に取り組むようにする。
数量関係	○算数Aでは64.2%と市の平均正答率61.8%より2.4ポイント、算数Bでは48.6%と市の平均正答率47.3%より1.3ポイント上回った。 ○示された情報を正しく解釈し、表に整理して問題を解決する力が市平均と比較して高かった。 ●「200人のうち80人が小学生の場合、小学生の人数は全体の人数の何%にあたるか。」を選ぶ設問では、百分率の求め方の理解に課題が見られた。	・百分率について生活体験に結び付けて考えさせるようにする。さらに問いに対する答えの見積もりをする活動を取り入れ、見積もりの結果が正しかったかどうかを振り返る。また、社会科など他教科でも割合に関連する資料の正しい読み取り方を指導していく。 ・数量の関係をとらえながら考察し、数学的に表現することができるよう、活動の充実を図る。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	63.9	59.0	59.8
	エネルギー	52.1	56.4	53.1
	生命	76.7	78.6	73.6
	地球	50.9	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	90.3	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	54.5	56.1	54.1
	観察・実験の技能	72.2	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	87.5	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○平均正答率は63.9%と、市の59.0%よりも4.9ポイント上回った。 ○「ものの溶け方」における食塩を水に溶かした時の全体の重さを問う問題、食塩水を熱した時の食塩の蒸発を問う問題では、県・国平均と比べて正答率が高かった。	・基本的なろ過の方法を身に付けられるよう、実験を振り返りながら、より確実な知識や技能の定着を図っていく。 ・課題に対した的確な結果のまとめ方ができるよう、日ごろの授業において指導をしていく。
エネルギー	●平均正答率は52.1%と、市の56.4%を4.3ポイント下回った。 ○回路と電流の向きを問う問題では、正答率が高かった。 ●回路の電気の流れ方についての問題では、予想をもとに結果を見通して実験を構想することに課題が見られた。	・課題に対する予想が結果に適切に結び付くよう、日ごろの授業において、予想をもとに実験を行ったり、結果から分かったことを考察したりすることを丁寧に指導していく。 ・回路や電気の流れ方など、基本的な内容を一つ一つ丁寧に指導して、定着を図っていく。
生命	●平均正答率は76.7%と、市の78.6%を1.9ポイント下回った。 ○野鳥のヒナの様子を観察するための適切な方法を問う問題では、正答率が高かった。 ●腕の骨や筋肉のつくりと働きについて問う問題では、人の腕が曲がる仕組みを模型にあてはめて考えることに課題が見られた。	・人の体の作りについての学習を振り返りながら、関節が曲がる仕組みや、筋肉の動きについて正しく理解できるように繰り返し指導する。 ・自然観察の方法については正しく理解されていたので、今後も観察活動などを通して継続して指導にあたる。
地球	○平均正答率は50.9%で、市と同じであった。 ○流れる水の働きを表す言葉(たい積)を問う問題では、適切な名称と意味について理解できていた。 ●川を流れる水の量と地面の削られ方についての実験結果を問う問題では、多量の水が流れた場合の結果を十分に理解できていなかった。	・川を流れる水の量と浸食の関係を推測した上で、実験の結果などをもとに正しく理解できるよう、丁寧に指導する。 ・流水実験など体験的な学習を通して、理論と経験の双方から理解させ、学力の定着を図っていく。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の決まりを守っていますか。」については肯定割合が64.9%と、県平均の51.6%、国平均の43.8%を大きく上回り、規範意識が高いことがうかがえる。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」については95.9%と、県平均の88.5%、国平均の85.9%を上回り、いじめは許されないということへの意識が高いと言える。

○「家の人と学校の出来事について話をする。」や「地域の行事に参加している。」「地域に関心があるか。」「地域でボランティア活動に参加したことがある。」の肯定割合が、全国や県の割合よりそれぞれ10%から20%高いことから、家庭や地域との結びつきの強さがうかがえる。

●「家で学校の宿題をやっていますか。」や「家庭での学習時間」に関する質問においては、国や県の肯定割合より低い結果が出ており、まだ家庭での学習への定着がなされていない面も見られる。

●「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」の項目では、肯定割合が県平均より4%低く、関心はあるものの自分から考えて行動するまでには至っていないことが分かる。

宇都宮市立清原南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語における、読む力・表現する力の育成	「根拠をもった正確な読み取り」を重点課題とし、言語活動を通じて様々な考え方と出会う中で読みを深めていけるように、読みの交流を位置付けた授業の研究に取り組んでいる。また、読みの力において全児童に対する定期的なアセスメントを行い、読みの流暢性を高めるための学習の充実を図っている。	国語A・Bともに「話す・聞く」「書く」「読む」において市・国平均を上回った。自分の考えを整理して述べる力が高まっている一方で、言語に関する正しい理解において課題が見られた。
算数における単元や子どもの実態に合わせた少人数指導や習熟別学習の充実	個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し、計画的、継続的に指導にあたっている。	算数の学習への意欲は良い状況にあり、習熟度別や少人数による指導の成果と言える。また、算数A・Bともに市・国平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
読み手に伝わる書き方の工夫において課題が見られた。	言語活動と、考えを書いてまとめる活動の重視	低学年時から発達段階に応じて、自分の思考の過程が分かるノート記述の指導と、整理・まとめがしやすいワークシートの工夫をする。また、ユニバーサルデザインの視点に立った板書の工夫について全校体制で取り組み、どの児童にも効果的に思考や要点の整理ができるようにする。
家庭学習において、自ら計画を立てて取り組むことに課題が見られた。	「家庭学習のすすめ」(地域学校園共通)の提示と、目的が明確な課題設定、個に応じた助言等の工夫	学年の発達段階に応じて、より確かな定着に結びつく復習、予習の勧めや自主的な課題の見つけ方を示すなどして意識を高めていく。